

## プレス発表資料

平成24年7月4日  
独立行政法人 防災科学技術研究所

### 第3回防災コンテストを開催

～マップとドラマで災害に強い協働型社会をつくる～

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、「第3回e防災マップコンテスト」及び「第3回防災ラジオドラマコンテスト」を開催し、参加グループの募集を開始（締切：12月21日）しました。

本コンテストは、防災活動に取り組みたい方ならどなたでも参加可能です。eコミマップ（別紙資料2参照）の活用やドラマづくりを通じて、コンテスト参加者が地域関係者をはじめ様々な方と意見交換しながら、災害時に地域で起こる課題を想定し、対応策を検討し、対応策を実行できる協力体制をつくることで、災害に強い協働型社会の構築を目指します。

コンテスト参加申込み及び詳細については、下記URLの特設サイトをご参照ください。ご参加・ご応募、お待ちしております。

【e防災マップ】 <http://emap2012.bosai-contest.jp/>

【防災ラジオドラマ】 <http://drama2012.bosai-contest.jp/>

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会，科学記者会，筑波研究学園都市記者会

#### 【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所  
社会防災システム研究領域  
災害リスク研究ユニット  
長坂、須永  
電話：029-863-7546

#### 【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所  
アウトリーチグループ  
大石、松宮  
電話：029-863-7783  
FAX：029-851-1622

## 第3回防災コンテストを開催 ～マップとドラマで災害に強い協働型社会をつくる～

### 1. はじめに

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、「第3回 e 防災マップコンテスト」及び「第3回防災ラジオドラマコンテスト」を開催し、参加グループの募集を開始（締切：12月21日）しました。

本コンテストは、防災活動に取り組みたい方ならどなたでも参加可能です。e コミマップ（別紙2参照）の活用やドラマづくりを通じて、コンテスト参加者が地域関係者をはじめ様々な方と意見交換しながら、災害時に地域で起こる課題を想定し、対応策を検討し、対応策を実行できる協力体制をつくることで、災害に強い協働型の社会の構築を目指します。

これまでに実施した第1回、第2回コンテストでは、町内会や自主防災組織のみならず、PTAや福祉団体、民間事業者、中学・高校の部活動、各種市民活動団体、数名の地域の仲間や友人などで結成したグループなど、さまざまなグループがご参加いただきました。「東日本大震災の対応に実際に活かされた」と参加者からコメントが寄せられており、全国の皆様に本コンテストを通じて災害に強い協働型社会を構築していただきたいと考えております。

コンテスト参加申込み及び詳細については、下記URLの特設サイトをご参照ください。ご参加・ご応募、お待ちしております。

◆ e 防災マップ <http://emap2012.bosai-contest.jp/>

◆ 防災ラジオドラマ <http://drama2012.bosai-contest.jp/>

### 2. 開催概要（両コンテスト共通）

|         |   |
|---------|---|
| ◆主催     | 独立行政法人 防災科学技術研究所  |
| ◆後援     | 内閣府、文部科学省 ※文部科学省は申請手続き中です。  |
| ◆応募締め切り | 2012年(平成24年)12月21日(金)まで   |
| ◆対象者    | 地域の防災力を高めたいと考えている方はどなたでも参加できます。ただし、グループでの参加が必要です。既成のグループだけでなく、コンテストのために新たに結成したグループや複数のグループの共同でも参加できます。  |
| ◆審査結果発表 | 2013年(平成25年)1月下旬から2月上旬を予定   |
| ◆表彰式    | 2013年(平成25年)2月23日(土)に東京国際フォーラムにて、シンポジウムと合わせて開催予定  |
| ◆特設サイト  | ◆ e 防災マップ <a href="http://emap2012.bosai-contest.jp/">http://emap2012.bosai-contest.jp/</a><br>◆ 防災ラジオドラマ <a href="http://drama2012.bosai-contest.jp/">http://drama2012.bosai-contest.jp/</a> |

### 3. e 防災マップコンテスト詳細

e防災マップコンテストでは、インターネットを使ったマップ作成システム「eコミマップ（別紙資料2参照）」で作成した、地域固有の防災マップを応募します。本コンテストでは、出来上がったマップ自体の評価だけではなく、マップ作りを通じて、又はマップを活用して、現状の防災体制の見直しや災害時の対応体制の再構築など、地域のさまざまな協力が見直されたり新たに形成されたりする活動の内容、すなわち「災害に強い協働型の社会」づくりの活動を評価いたします。

|                 |   |
|-----------------|---|
| ◆応募締め切り         | 2012年(平成24年)12月21日(金)   |
| ◆審査             | 防災に関わる学識経験者等による審査委員会にて厳正な審査を行い決定いたします。  |
| ◆賞              | 最優秀賞1点、優秀賞5点を予定   |
| ◆作品公開           | 受賞作品はインターネットで紹介いたします  |
| ◆表彰式および記念シンポジウム | 2013年(平成25年)2月23日、東京国際フォーラム(JR有楽町駅徒歩1分)にて開催予定です。ドラマコンテスト表彰式と合同実施です。詳細は、決まり次第、コンテストの特設サイトよりご案内いたします。 |
| ◆特設サイト          | <a href="http://emap2012.bosai-contest.jp/">http://emap2012.bosai-contest.jp/</a>                   |

### 4. 地域発・防災ラジオドラマコンテスト詳細

防災ラジオドラマコンテストでは、さまざまな主体が協働して各種自然災害に対する地域の防災力を高める取り組みや、災害時の発生時に地域の多様な主体が協力・連携して災害に立ち向かうことをテーマとする防災ラジオドラマ（音声または脚本）を募集いたします。e防災マップと同様、出来上がったドラマそのものだけではなく、ドラマ作りを通じて、又はドラマを活用して、現状の防災体制の見直しや災害時の対応体制の再構築など、地域のさまざまな協力が見直されたり新たに形成されたりする活動の内容、すなわち「災害に強い協働型の社会」づくりの活動を評価いたします。

作品はドラマ部門（音声による応募）と脚本部門（脚本・原稿による応募）から選択してご応募いただきます。作品応募時に部門の選択は必要ですが、参加申請時は選択する必要はございません。まずは参加申請していただき、作品応募時に部門の選択を作品完成の進捗状況などを鑑みて決定していただくことをお勧めいたします。

|                 |  |
|-----------------|--|
| ◆応募締め切り         | 2012年(平成24年)12月21日(金)  |
| ◆審査             | 防災に関わる学識経験者等による審査委員会にて厳正な審査を行い決定いたします。   |
| ◆賞              | 最優秀賞1点、優秀賞10点（ドラマ部門5点、台本部門5点）を予定。  |
| ◆作品公表           | 受賞作品は、インターネットでの公開）や各地のコミュニティFM局での放送を予定しております。  |
| ◆表彰式および記念シンポジウム | 2013年(平成25年)2月23日、東京国際フォーラム(JR有楽町駅徒歩1分)にて開催予定です。e防災マップコンテスト表彰式と合同実施です。詳細は、決まり次第、コンテストの特設サイトよりご案内いたします。 |
| ◆特設サイト          | <a href="http://drama2012.bosai-contest.jp/">http://drama2012.bosai-contest.jp/</a>                    |

## 5. 両コンテストの研究的位置づけ

本コンテストは、府省連携による社会還元加速プロジェクトのひとつとして、当研究所が取り組んでいる研究プロジェクト「災害リスク情報プラットフォームの開発に関する研究」の一環として行う実証実験となります。コンテストを通じて、住民が主体となって、地域の多様な主体が協働して、地域の災害をより具体的に理解し、社会資源や主体間の協働関係を活かした災害対応や防災活動を検討する、マップとドラマを活用した地域協働による社会づくりのリスクコミュニケーション手法と、その社会づくりの活動を支えるシステム（e コミマップ）の有効性を検証します。

## 6. これまでの作品について

これまでに開催した両コンテストの作品や、コンテストに関わらずマップやドラマづくりに取り組んで作成された作品は、web より一般公開しております。両コンテスト特設サイトにリンクが設置されておりますので、そちらをご覧ください。

- ◆ e 防災マップ <http://emap2012.bosai-contest.jp/>
- ◆ 防災ラジオドラマ <http://drama2012.bosai-contest.jp/>

これまでの作品をご覧になる場合は赤枠のリンク先を参照願います。

参加申し込みは青枠のリンク先でお受けしております。

e 防災マップコンテスト特設サイト <http://emap2012.bosai-contest.jp/>

防災ラジオドラマコンテスト特設サイト <http://drama2012.bosai-contest.jp/>

これまでの作品の紹介では、コンテスト参加者が作成した e 防災マップや防災ラジオドラマの脚本（PDF形式）、および音声（MP3形式）を公開しております。また、作成過程の活動記録についても、公開しております。



### 【マップ例】We ♥ Sengen(茨城県つくば市千現地区)

We ♥ Sengen は、2010 年夏、千現地区 1 丁目の自治会長(当時)と地元小学生、そのお母さんで結成されたグループです。自治会長が個人の立場で地元の小学生に「夏休みの自由課題を一緒にやろう」と声をかけ、取り組みがスタートいたしました。

地域の災害時の対応を調べた結果、避難所に備蓄が無いことが明らかとなり、地元事業所や商店等に「災害時にどのような協力ができるのか?」というアンケートを実施しました。「We ♥ Sengen マップ」はそのアンケート結果を整理したマップです。災害時における対応と地域協働の関係が記されています。作ったマップは、協力いただいた事業所・商店の広告とともに地域に配布しました。

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が発災、つくば市千現地区では断水や停電が発生、交通が麻痺、つくばで働いている方や観光客が帰宅困難、千現の避難所(二宮小学校)には駅から近いため、住民だけでなく大勢の帰宅困難者が集まってきました。発災前に築いた協力体制に基づき、地元事業者や商店などから水や食料、支援手伝いの方々などが集まりました。

We ♥ Sengen メンバーは、当時の様子について「作成したマップを地域に配ることで、地域が対応のシミュレーションをイメージできていた」、「パニックは全然なかった。心の準備ができていて心強かった」、「マップづくりの活動が実際に効果として出ていた」と、地元コミュニティラジオ(ラヂオつくば)のインタビューにて、マップを使った協働社会づくりの効果についてお答えいただきました。

### We ♥ Sengenマップ(協力関係マップ)



|   |   |
|---|---|
|  |  <b>協力関係法人</b> |
|   | 名称:<br>(株)ニチイ学館ニチイケアセンター  |
|   | 協力関係:できた  |
|   | 協力内容:<br>人的協力(担架による負傷者搬送、避難所運営)、物的協力(調理器具、衣類・身の回り品、応急に必要物資、寝具、移動入浴車)、スキル(看護・介護)、避難場所              |

## 「eコミマップ」について

本システムは、インターネットを活用したマップ作成システムです。インターネット上にある様々な地図データを、国際標準のデータのやりとりを行う方式に対応することで、一つの画面に様々な地図データを重ねて表示することができ、それらの地図を下敷きにマウスクリックで簡単に自分達の情報を登録することができます。それを印刷した活用も簡単に行えます。

このシステムは、防災目的だけでなく、環境分野など様々な場面で活用が可能です。また、GPLによるオープンソースで無償公開を行っております。

本システムは、これまでの防災コンテストをはじめとして、東日本大震災においても活用されております。具体的には、①ALL311 (<http://all311.ecom-plat.jp/>、被災直後に被災地入りする方々を支援するための情報共有)、②宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンター (<http://msv3151.c-bosai.jp/>、ボランティアセンター運営の支援)、③行政支援(マップは非公開。罹災証明発行、がれき処理支援などを釜石市、陸前高田市、大槌町で実施)、④311まるごとアーカイブス (<http://311archives.jp/>、震災・復興の記録とアーカイブを活用した被災地支援)などで活用されています。



図1 第2回e防災マップコンテスト作品例  
(星崎学区防災マップ)

(左図)第2回e防災マップコンテストの作品

左図は、愛知県名古屋市南区の星崎学区のマップです。台風や津波による水害リスクを理解し、地域の避難施設までの推奨ルートを設定するとともに、高い建物への避難を推奨するなど、実践的な対策マップを作成しました。①多様な主体との協働により、行政やNPOの協力も得て専門的な知見を活用するなど、詳細な調査に基づいて対策を練っている、②図上訓練などに利用しマップを活用した避難シミュレーションなどの検討が具体的に行われている、③子供の目線、地域の目線で検討がなされており、まちあるきなどフィールド調査がしっかり行われており実践的である、上記の点が高く評価され、第2回本マップコンテストで最優秀賞を受賞されました。

(右図)被災地での活用

東日本大震災では、被災地で、被災地外からの支援で、eコミマップが活用されています。行政やボランティアセンター、自衛隊など、さまざまな方々が、情報共有や今後の活動の検討などの場面でeコミマップを活用しています。

図2 被災地でのeコミマップの利用  
(左：気仙沼市、右：石巻市)



**【東日本大震災でのeコミマップ活用例】** ●ボランティアニーズマップ ●ボランティア・自衛隊炊き出し調整マップ ●罹災証明発行マップ ●がれき処理支援マップ ●被災前後比較マップ ●ボランティア等被災地入り用道路マップ ●避難行動証言アーカイブマップ ●復興観測マップ、など